

植物成長調整剤使用指針

目 次

植物成長調整剤使用指針	2
1 水稲	3
2 野菜	4
3 りんご	6
4 特産果樹 (1)ぶどう	8
(2)おうとう	10
(3)なし	10
5 花き	11

改正事項一覧表

作物名	使用目的	改正事項	改正内容
りんご	摘花	備考	・備考の一部を訂正
	摘果	使用目的、薬剤名、有効成分、適用品種、使用時期、希釈倍数、備考	・「マイクロデナボン水和剤85」を削除
	つる割れ軽減	備考	・「マイクロデナボン水和剤85」の削除に伴い備考の一部を削除
	収穫前落果防止	使用時期、備考	・使用時期の変更 ・備考の一部を訂正
トマト、なす、いちご(促成栽培)、いちご、メロン、うど(春うど)	-	別表	・「ジベレリン協和粉末」、「ジベレリン協和錠剤」及び「ジベレリン協和液剤」を削除
にんにく	-	作物名、農薬名、有効成分、使用目的、処理方法、処理時期、希釈倍数・濃度、参考及び注意事項	・「サンキャッチ液剤30S」を削除
ぶどう	-	表下※2	・「ジベレリン協和粉末」及び「ジベレリン協和錠剤」を削除
おうとう	-	使用目的、薬剤名、有効成分、適用品種、使用時期、希釈倍数、備考	・「サンキャッチ液剤30S」を削除
なし	-	薬剤名 表下※1	・※1及び注釈を削除(「ジベレリン協和ペースト」削除のため)

1 水 稲

農薬名	有効成分	薬効	処理方法	処理時期	使用量	参考及び注意事項
フジワン粒剤	イソプロチオラン	ムレ苗防止	苗の上から均一散布	緑化始期	1箱当たり30g(使用土壌約5ℓ)	① 散布後薬剤が流れないように静かにかん水する。 ② 苗立枯病には効果がないので、それらに有効な薬剤と体系処理する。 ③ 床土や覆土と混和しない。 ④ 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。 ⑤ 散布後は河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意する。
タチガレエースM粉剤	ヒドロキシイソキサゾール メタラキシルM	同上	育苗箱土壌に均一に混和	は種前	1箱当たり8g(使用土壌約5ℓ)	① 床土pH、温度管理、水分管理などは適正に行う。
タチガレエースM液剤	ヒドロキシイソキサゾール メタラキシルM	同上	灌注	は種時	1,000倍液を1箱当たり1,000mℓ(使用土壌約5ℓ) または、500～1,000倍液を1箱当たり500mℓ(使用土壌約5ℓ)	① 床土pH、温度管理、水分管理などは適正に行う。
ロミカ粒剤	ウニコナゾールP	節間短縮による倒伏軽減	湛水散布	出穂前20～10日	3kg/10a	① 湛水土壌で均一に散布し、散布後7日程度湛水状態を保つ。 ② 後作物への影響が見られる場合もあるので、水田輪作を計画している場合は使用しない。 ③ 薬剤散布後の水田土を、野菜類の育苗用床土に使用することは避ける。
スマレクト粒剤	バクロブトラゾール	同上	同上	出穂前15～10日	3kg/10a	
ビビフルフロアブル	プロヘキサジオンカルシウム塩	同上	茎葉散布又は無人ヘリ	出穂前10～2日	茎葉散布：75～100mℓ/10a 無人ヘリ：100mℓ/10a	① 茎葉散布は所定の薬液量を10a当たり、通常散布50～150ℓの水に希釈して使用する。 ② 無人ヘリは所定の薬液量を10a当たり、800mℓの水に希釈して使用する。
カルパー粉粒剤16(湛水直は)	過酸化カルシウム	発芽率の向上 苗立歩合の安定	湿粉衣	は種前 浸種後	乾燥種籾重量の等倍～2倍量	① 浸漬後、鳩胸状に催芽した後に粉衣する。 ② 粉衣した種籾は表面が白色になるまで陰干しする。

注)農薬の使用に当たっては、水系への流入を防ぐため、散布後7日間は落水・かけ流しをしない。

2 野菜

(1) ばれいしょの茎葉枯凋

ア 石灰窒素50の使い方

使用目的	使用方法	使用時期	10a当たりの使用量		有効成分
			薬量(kg)	希釈水量(ℓ)	
茎葉枯凋	茎葉散布(上澄液)	茎葉黄変期	10~15	100	石灰窒素
	茎葉散布			—	

○ 使用上の注意

- (ア) 粉状石灰窒素をそのまま散布する場合は、付着性をあげるため、降雨後、朝露等で茎葉が十分湿っているとき、又は茎葉に散水(100リットル程度)して水分を付着させてから行う。
- (イ) 上澄液を調製する場合は、攪拌5分・10分放置を5回繰り返して、1時間放置後、上澄液を吸い上げ使用する。
- (ウ) 周囲の作物に飛散しないよう、風のない時を選んで散布する。
- (エ) 吸い込んだり、皮膚に付着しないようマスク等を着用する。

イ デシカン乳剤の使い方

使用目的	使用方法	使用時期	10a当たりの使用量		有効成分
			薬量(ml)	希釈水量(ℓ)	
茎葉枯凋	茎葉散布	茎葉黄変期 但し、収穫3日前まで	250~450	100	ピラフルフェンエチル

○ 使用上の注意

茎葉の完全枯死までに要する期間は、1回処理で10~20日、2回処理で8~10日である。

ウ レグロックスの使い方

使用目的	使用方法	使用時期	10a当たりの使用量		有効成分
			薬量(ml)	希釈水量(ℓ)	
茎葉枯凋	茎葉散布	黄変期~枯凋期、但し、収穫14日前まで	300	70~100	ジクワット

○ 使用上の注意

茎葉の完全枯死までに要する期間は、4~6日である。

(2) 各作物別植物成長調整剤効果等一覧

作物名	農薬名	有効成分	使用目的	処理方法	処理時期	希釈倍数・濃度 (散布液量)	参考及び 注意事項
トマト	トマトトン	4-CPA	着果促進、果実の肥大促進、熟期の促進	散布	開花前3日~開花後3日位 (1花房で3~5花位開花した時期)	低温時 (20℃以下) 50倍 高温時(20℃以上) 100倍	頂芽、幼葉にかからぬよう噴霧 花又は花房が一面にぬれる程度
	ジベレリン水溶剤、ジベレリン液剤	※ジベレリン水溶剤、ジベレリン液剤の農薬名、有効成分等は別表のとおり	空どう果防止	花房散布	開花時	10ppm (5ml/花房)	トマト落果防止剤と併用
ミニトマト	トマトトン	4-CPA	着果促進、果実の肥大促進、熟期の促進	散布	開花前3日~開花後3日位	低温時 (20℃以下) 50倍 高温時 (20℃以上) 100倍	頂芽、幼葉にかからぬよう噴霧 花が一面にぬれる程度
	エスレル10	エテホン	熟期促進	果房散布	各果房毎の白熟期	300~500倍 (5ml/果房)	
なす	トマトトン	4-CPA	着果促進、果実の肥大促進、熟期の促進	散布	開花当日	50倍	芽・幼芽にかからぬよう噴霧 花が一面にぬれる程度
	ジベレリン水溶剤、ジベレリン液剤	※ジベレリン水溶剤、ジベレリン液剤の農薬名、有効成分等は別表のとおり	着果数増加	葉面散布	開花時	10~50ppm (100~150ℓ/10a)	

作物名	農薬名	有効成分	使用目的	処理方法	処理時期	希釈倍数・濃度 (散布液量)	参考及び 注意事項
いちご (促成栽培)	ジベレリン水 溶剤、ジベレ リン液剤	※ジベレリン 水溶剤、ジベ レリン液剤の 農薬名、有効 成分等は別表 のとおり	着果数増 加、熟期促 進	茎葉全面散 布	休眠に入る直 前(冬場の低温 期)	10ppm (5ml/株)	
いちご	ジベレリン水 溶剤、ジベレ リン液剤	※ジベレリン 水溶剤、ジベ レリン液剤の 農薬名、有効 成分等は別表 のとおり	果柄伸長促 進	株の中心部 に散布	頂花の出蕾直 後～開花直前	10ppm (5ml/株)	
すいか	塗布用 ベアニン	ベンジルアミ ノブリン	着果促進	果梗部に塗 布	開花当日	原液 (1ml/100果)	○ 処理薬量はできるだけ 少量とし、毛筆か綿棒 を使用する。 ○ 人工交配と併用する。 ○ 果梗部以外の部分には つけない。
メロン	トマトトーン	4-CPA	着果促進	塗布	開花前日～翌 日	3～5倍	
				散布		25～100倍	
	ジベレリン水 溶剤、ジベレ リン液剤	※ジベレリン 水溶剤、ジベ レリン液剤の 農薬名、有効 成分等は別表 のとおり	着果促進	散布 (4-CPA剤 50倍液 に加用)	開花前日～翌 日	200ppm (2～5ml/花)	
うど (春うど)	ジベレリン水 溶剤、ジベレ リン液剤	※ジベレリン 水溶剤、ジベ レリン液剤の 農薬名、有効 成分等は別表 のとおり	休眠打破に よる生育促 進	根株散布	伏込時	50ppm (20～25ml/株)	○ 芽および根株は十分湿 る程度散布する。
				根株浸漬		50～100ppm	
キャベツ	スミセブンP 液剤	ユニコナゾー ルP	育苗期の伸 長抑制	茎葉散布	定植前子葉展 開期～本葉3 葉期	500倍液 1トレー(30cm ×60cm、使用 土壌約1.5～ 4L)当り100ml	
				土壌灌注			

別表 ジベレリンの農薬名、有効成分等

農薬の種類	農薬名	有効成分	各作物への農薬登録
ジベレリン水溶 剤	ジベレリン明治	ジベレリン 3.1%	トマト、なす、いちご(促成栽培)、いちご、メロン、うど (春うど)
	S Tジベラ錠	ジベレリン 3.58%	トマト、なす、いちご(促成栽培)、いちご、メロン、うど (春うど)
	S Tジベラ錠5	ジベレリン 2.78%	トマト、なす、いちご(促成栽培)、いちご、メロン、うど (春うど)
ジベレリン液剤	ジベレリン明治液剤	ジベレリン 0.50%	トマト、なす、いちご(促成栽培)、いちご、メロン、うど (春うど)

3 りんご

使用目的	薬剤名	有効成分	適用品種	使用時期 希釈倍数	備考
摘花	石灰硫黄合剤	多硫化カルシウム	全品種	<ul style="list-style-type: none"> 満開後（頂芽花の満開日とえき芽花の満開日） 100～120倍 	<ul style="list-style-type: none"> 展着剤不要。 開花量が多い場合に人工受粉を行ってから使用する。 薬液は開花した花のめしべに十分かかるように散布する。 マメコバチに対して害作用がないので、マメコバチ導入園で利用してもよい。 ミツバチ導入園で石灰硫黄合剤を利用する場合は、散布前にミツバチの巣箱を回収する。 エコルーキーは、花そう葉又は新梢幼葉の葉縁部に褐変（葉焼け）症状が発生する可能性がある。 サニデイは、散布後に葉がしおれる症状（エピナスティ）を示すが、1週間程度で回復する。
	エコルーキー	ギ酸カルシウム		<ul style="list-style-type: none"> 満開日、追加散布を要する場合はその2～3日後に1回 100～150倍 	
	サニデイ	MC P B	ふじ	<ul style="list-style-type: none"> 頂芽中心花満開1～2日後 2,000倍 	
つる割れ軽減	ヒオモン水溶剤	1-ナフタレン酢酸ナトリウム	ふじ、早生ふじ	<ul style="list-style-type: none"> 満開20～30日後 3,000倍 	<ul style="list-style-type: none"> 展着剤不要。 本剤は単用散布とする。 散布後に葉がしおれる症状（エピナスティ）を示すが、1週間後にはほぼ回復する。 高温、乾燥時の散布は避ける。新梢先端葉及び樹冠内の果そう葉の黄変落葉や頂芽の欠落が発生した事例がある。 極端に樹勢の弱い樹への散布は避ける。 果実肥大が抑制される場合がある。 新梢の二次伸長を助長する場合がある。
側芽発生促進（苗木）	ビーエー液剤	ベンジルアミノプリン	ふじ、ジョナゴールド、北斗（品種A）	<ul style="list-style-type: none"> 新梢伸長時（新梢50～60cm伸長時、遅くとも7月末まで） 品種A：100倍、品種B：50倍 	<ul style="list-style-type: none"> 展着剤不要。 本剤は、生長の旺盛な新梢ほど効果が高い。樹勢が弱ると側枝は発生しにくい。 散布は、葉の表裏に丁寧に行う。 本剤の散布の前後にボルドー液を散布した場合は効果が劣るので、ボルドー液を散布しない。
高接ぎ1年枝側芽発生促進			つがる、王林（品種B）	<ul style="list-style-type: none"> 伸長旺盛期（新梢30～50cm伸長時、6月中旬～下旬） 品種A：100倍、品種B：50倍 	

使用目的	薬剤名	有効成分	適用品種	使用時期 希釈倍数	備考
収穫前 落果防止	ストップール液剤	ジクロロプロップ	未希ライフ、 きおう	・収穫開始予定日の 20～15日前（8月10 日頃） ・1,000倍	<ul style="list-style-type: none"> ・展着剤不要。 ・本剤は単用散布とする。 ・散布後7日間は収穫できない。 ・未希ライフやきおうに対して早期散布すると、つる割れが発生したり、果肉が軟化したりするなど、品質低下を招く場合があるので、適期に使用する。 ・つがるに対して、伸長中の新梢の先端部枝葉に葉害がでることがあるので、高温時（28℃以上）の散布は行わない。 ・つがるに対して本剤を2回散布したり、早出しを目的に極端な早期散布をしたり、また、着色促進剤などと併用すると、果実の軟化や油あがり著しく早まるほか、年によっては裂果やつる元の腐敗などが多くなるので、適期に使用する。 ・果実の熟度を進ませる傾向があるので、収穫や販売を遅らせないようにする。 ・果実の軟化が発生する場合があるので、収穫前落果の少ない品種には使用しない。 ・着色手入れの葉摘み作業は、散布後少なくとも4～5日経過してから始める。 ・万一、ながいものに飛散した場合、ながいもの変形など葉害が生ずる。
			つがる	・収穫開始予定日の 25日前（8月15日 頃） ・1,000倍	
			秋陽	・収穫開始予定日の 25日前（9月10日 頃） ・1,000倍	
			世界一	・収穫開始予定日の 25日前（9月15日 頃） ・1,000倍	
	ヒオモン水溶剤	1-ナフタレン 酢酸ナトリウム	きおう	・収穫開始予定日の 21日前（8月10日 頃） ・2,000倍	<ul style="list-style-type: none"> ・展着剤不要。 ・本剤は単用散布とする。 ・散布後4日間は収穫できない。 ・高温時の散布は避ける。 ・着色手入れの葉摘み作業は、散布当日から始めても落下防止効果は得られる。 ・果実の熟度や日持ち性は無処理の果実と同等である。
			つがる	・収穫開始予定日の 21日前（8月20日 頃） ・2,000倍	
			秋陽	・収穫開始予定日の 21日前（9月15日 頃） ・2,000倍	
			世界一	・収穫開始予定日の 21日前（9月20日 頃） ・2,000倍	
摘葉	ジョンカラプロ	キノキサリン 系、MEP	ふじ	・収穫40～50日前 ・500倍	<ul style="list-style-type: none"> ・展着剤（ブラボー）加用。 ・散布後30日間は収穫できない。 ・散布後、低温や降雨が続くと効果が不十分であり、極端な高温に遭遇すると過剰落葉となるので、できるだけ気象が温暖（平均気温：17～19℃）で好天が予想される時に散布する。 ・日当たりの悪い園地、樹勢の弱い樹、紋羽病、銀葉病、褐斑病などの被害樹では過剰落葉のおそれがあるので、散布しないか、散布量を少なくする。 ・早生ふじやジョナゴールドで果実に葉斑（さび）が生じた事例がある。

4 特産果樹

(1)ぶどう

薬剤名	有効成分	品種名※1	使用目的	使用時期	使用濃度	使用方法	備 考	
ジベレリン水溶剤※2	ジベレリン	サニールージュ	無種子化、果粒肥大促進	1 回 処 理	満開 3～5 日後 (落花期)	25ppm	花房浸漬 (ホルクロ ルフェニユ ロン10ppm 液に加用)	<ul style="list-style-type: none"> ・「サニールージュ」は花冠が離脱しにくい ため、満開時の判定がやや困難である。 大部分の花冠の色が、緑色から淡褐色に 変わった時が満開時となる。 ・ジベレリン水溶剤の1回処理を行う場 合は、必ずフルメット液剤に加用する。 この場合、「サニールージュ」では着粒 過多になりやすいので、摘粒を適切に行 う。 ・「サニールージュ」の着粒密度低減、 果粒肥大促進のために2回処理する場 合は、1回目処理時に必ずフルメット液剤 3ppmに加用し、2回目処理時には加用 しない。 ・薬液は使用の都度調製し、その日のう ちに使用する。
				2 回 処 理	第1回目： 満開時～ 満開3日後	25ppm	花房浸漬	
					第2回目： 満開10～15 日後	25ppm	果房浸漬	
			着粒密度低減、果粒肥大促進	2 回 処 理	第1回目： 満開予定日 14～20日前	25ppm	花房浸漬 (ホルクロ ルフェニユ ロン3ppm 液に加用)	
					第2回目： 満開10～15 日後	25ppm	果房浸漬	
				1 回 処 理	満開 3～5 日後 (落花期)	25ppm	花房浸漬 (ホルクロ ルフェニユ ロン10ppm 液に加用)	
		シャイン マスカット	無種子化、 果粒肥大 促進	2 回 処 理	第1回目： 満開時～ 満開3日後	25ppm	花房浸漬	
					第2回目： 満開10～15 日後	25ppm	果房浸漬	
				1 回 処 理	満開 3～5 日後 (落花期)	25ppm	花房浸漬 (ホルクロ ルフェニユ ロン10ppm 液に加用)	
		パッファロー (アーリー スチューベン)	無種子化、 果粒肥大 促進	2 回 処 理	第1回目： 満開予定日 約14日前	100ppm	花房浸漬	
					第2回目： 満開約10日 後	100ppm	果房浸漬	

※1 農薬登録上の作物名称：サニールージュが「ぶどう（サニールージュ）[無核栽培]」、シャインマスカットが「ぶどう（2倍体欧州系品種）[無核栽培]」、パッファロー（アーリースチューベン）が「ぶどう（ヒムロッドシードレスを除く2倍体米国系品種）[無核栽培]」に分類

※2 ジベレリン明治、STジベラ錠、STジベラ錠5、住友ジベレリン粉末、住友ジベレリン錠剤、MICジベレリン粉末

薬剤名	有効成分	品種名※1	使用目的	使用時期	使用濃度	使用方法	備考
フルメット液剤	ホルククロルフェニユロン	サニールージュ	無種子化、果粒肥大促進	満開 3～5日後 (落花期)	10ppm	ジベレリンに加入 花房浸漬	<ul style="list-style-type: none"> ・ジベレリン水溶剤の1回処理を行う場合は、必ずジベレリン水溶剤に加入する。この場合、「サニールージュ」は着粒過多になりやすいので、摘粒を適切に行う。 ・「サニールージュ」の着粒密度低減、果粒肥大促進のために使用する場合は、ジベレリン水溶剤1回目処理時に必ずフルメット液剤3ppmをジベレリン水溶剤に加入し、2回目処理時には加入しない。 ・「シャインマスカット」の着粒安定のために使用する場合は、ジベレリン水溶剤1回目処理時にフルメット液剤5ppmをジベレリン水溶剤に加入し、2回目処理時には加入しない。 ・ジベレリン以外の薬剤との混用を避ける。 ・調整した薬液は、その日のうちに使用する。
			着粒密度低減、果粒肥大促進	満開予定日 14～20日前	3ppm	ジベレリンに加入 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)	
		シャインマスカット	着粒安定	満開時～満開3日後	5ppm	ジベレリンに加入 花房浸漬 (ジベレリン第2回目処理は慣行)	
			無種子化、果粒肥大促進	満開3～5日後 (落花期)	10ppm	ジベレリンに加入 花房浸漬	
			花穂発育促進	展葉6～8枚時	2ppm	花房散布	
ストレプトマイシン液剤※2	ストレプトマイシン硫酸塩	シャインマスカット	無種子化	満開予定日の14日前～開花始期	1,000倍 (200ppm)	花房散布又は花房浸漬	・ストレプトマイシン処理は、無種子化、果粒肥大促進を目的としたジベレリン処理の前に行う。

※1 農薬登録上の作物名称：サニールージュが「ぶどう（サニールージュ）〔無核栽培〕」、シャインマスカットが「ぶどう（2倍体欧州系品種）〔無核栽培〕」に分類

※2 ストレプトマイシン液剤：アグレプト液剤（使用方法：花房散布）、ストマイ液剤20（使用方法：花房浸漬）

ジベレリン水溶剤、フルメット液剤及びストレプトマイシン液剤の適用方法

品種名	使用目的	処理回数 (うちGA回数)	満開予定日		満開		満開		満開	
			20日前	14日前	開花始期	満開時	3日後	5日後	10日後	15日後
サニールージュ	無種子化、果粒肥大促進	1回(1回)					GA25 +F10			
		2回(2回)				GA25		GA25		
	着粒密度低減、果粒肥大促進	2回(2回)	GA25 +F3					GA25		
シャインマスカット	無種子化、果粒肥大促進	2回(1回)		SM200			GA25 +F10			
	無種子化、着粒安定、果粒肥大促進	3回(2回)		SM200			GA25 +F5		GA25	
パッファロー (アーリースチューベン)	無種子化、果粒肥大促進	2回(2回)		GA100				GA100		

※表中のGAはジベレリン水溶剤、Fはフルメット液剤、SMはストレプトマイシン液剤を示す。また、各記号の後の数字は濃度 (ppm) を示す。+は加用することを示す。

特産果樹

(2) おうとう

薬剤名	有効成分	作物名 (品種名等)	使用目的	使用時期	希釈倍数	備考
バウンティフロアブル	バクロブト ラゾール	おうとう	新梢伸長抑制	満開後3～ 6週間 (但し、収穫 14日前まで)	1,000倍	<ul style="list-style-type: none"> ・著しい新梢伸長抑制効果があるので、強樹勢樹を対象とし、散布量、回数はその樹勢の程度を判断して行う。 ・樹勢の弱い樹には散布しない。 ・樹勢により、単年処理で十分な効果が見られる場合がある。 ・節間長が短く、単位長当たりの葉枚数が多くなるので、葉摘みなどの着色管理が必要になる。 ・散布量が多いと、根からも吸収され、翌年以降への影響や必要以上の効果が現れるので注意する。 ・展着剤を加用する。
ビーエー液剤	ベンジルア ミノプリン	おうとう (苗木)	副梢発生促進	新梢伸長時 (主幹延長枝 の30～50cm 伸長期)	25～50倍	<ul style="list-style-type: none"> ・未結果樹で使用する。 ・散布は、葉の表裏に丁寧に行う。 ・使用時期は、例年では6月～7月上旬である。 ・本剤は、生長の旺盛な新梢ほど効果が高い。主幹延長枝の伸長を促すために、散布前に主幹延長枝と競合する新梢は剪去する。 ・「南陽」及び「ジュノハート」は副梢が発生しにくいので、25倍で使用する。 ・新梢基部等の葉液の乾きにくい葉で褐変を生じる場合があるが、その後の生育には影響ない。 ・展着剤は不要である。

(3) なし

薬剤名	有効成分	作物名 (品種名)	使用目的	使用時期	希釈倍数 ・使用量	備考
ジベレリンペースト	ジベレリン	日本なし	熟期促進	満開30～40 日後	20～30mg /1果	<ul style="list-style-type: none"> ・摘果終了後塗布する。 ・果面につかないように塗布する。 ・収穫期を誤らないようにする。
フルメット液剤	ホルクロル フェニユロ ン	日本なし (幸水)	果実肥大促進	満開10～20 日後	10～15ppm	<ul style="list-style-type: none"> ・1果ごとに十分かかるようにする。 ・収穫期を誤らないようにする。 ・調製薬剤は当日に使いきる。 ・降雨が予想される時、異常な高温、乾燥時には使用しない。
エスレル10	エテホン	西洋なし (ラ・フランス、 ゼネラル・ レクラーク、 フレミッシュ・ ビューティ)	摘果	満開後 1～2週間	1,000倍・ 200～3000 /10a	<ul style="list-style-type: none"> ・展着剤は使用せず、単用散布とする。 ・結実量の少ない場合は使用しない。また樹勢の弱い樹では使用しない。 ・異常気象(高温、低温、多雨、乾燥)が続く場合、あるいは凍霜害などの気象災害があった場合には使用しない。 ・散布量は葉液がしたたり落ちない程度とし、過剰な散布は避ける。 ・年によって効果の発現が遅れたり、不十分な場合があるので、人手による仕上げ摘果は欠かさないようにする。

5 花き

花き名	農薬名	有効成分	使用目的	使用方法	使用時期	希釈倍数・使用量	参考及び注意事項
カーネーション	オキシベロン液剤	インドール酪酸	さし木の発根促進及び発生根数の増加	16～24時間さし穂基部浸漬	—	200～400倍 (5～2.5ml/水1ℓ)	
				5秒さし穂基部浸漬又はさし穂100本あたり10mlをさし穂基部に散布	2倍 (1000ml/水1ℓ)		
	オキシベロン粉剤0.5	インドール酪酸	さし木の発根促進及び発生根数の増加	さし穂基部(切り口から約1cm)に粉衣	—	(製剤10gあたり処理本数) さし穂の直径8～6mm約100～200本、6～4mm約200～300本、4～2mm約300～400本、2mm以下約400～500本	
きく	ビーナイン顆粒水溶剤	ダミノジッド	節間の伸長抑制	茎葉散布	摘芯後10日～7日又は定植3日後から発蕾初期	200～400倍 散布液量は5～10ml/5号鉢	○きく(ポットマム、施設栽培)で登録
					生育期	1000～1500倍 散布液量は50～150ℓ/10a	○きく(切花用、施設栽培)で登録
	キクエモン	ダミノジッド	節間の伸長抑制	茎葉散布	生育期	1000～1500倍 散布液量は50～150ℓ/10a	○きく(切花用、施設栽培)で登録
					発蕾期～摘蕾期	50～150ℓ/10a	
	ジベレリン水溶剤*	ジベレリン	開花促進、草丈伸長促進	茎葉散布	生育期	ジベレリン 25～100ppm	* 水溶剤はジベラ錠、ジベレリン錠剤、ジベレリン粉末等の商品名で販売
	ジベレリン液剤	ジベレリン					○水溶剤の含有量は商品によって異なるので、各剤の使用説明書に従う。
エスレル10	エテホン	開花抑制	全面散布(株全体がぬれる程度)	摘心時又は定植後1週間以内及びその後10～14日毎	500～1,000倍	○効果は品種により差がある。 ○定植時の苗の生育を揃える。 ○老化苗には使用しない。 ○散布間隔が長くなると、品質の悪い切花が出る。	
	オキシベロン粉剤0.5	インドール酪酸	さし木の発根促進及び発生根数の増加	さし穂基部(切り口から約1cm)に粉衣	—	(製剤10gあたり処理本数) さし穂の直径8～6mm約100～200本、6～4mm約200～300本、4～2mm約300～400本、2mm以下約400～500本	
	オキシベロン液剤	インドール酪酸	さし木の発根促進及び発生根数の増加	10秒さし穂基部浸漬	—	2倍 (1000ml/水1ℓ)	
3時間さし穂基部浸漬				500～1000倍 (2～1ml/水1ℓ)			
5～10秒さし穂全体浸漬				100～200倍 (10～5ml/水1ℓ)			

花き

花き名	農薬名	有効成分	使用目的	使用方法	使用時期	希釈倍数・使用量	参考及び注意事項
きく	※ルートン	1-ナフチルアセトアミド	挿木(挿苗)時処理による発根促進	挿木(挿苗)の基部に粉衣・水でペースト状にねってから挿木の切り口に塗布(詳細は、参考及び注意事項を参照)	—	—	○ 挿木(挿苗)の基部を3cmぐらい水にひたしその部分にうすい層になって付着する程度に粉のまままぶす。 ○ 或いは本剤を適当量の水でペースト状にねってから挿木の切り口にぬりつける。日陰干で乾燥してから挿す。この場合挿木(挿苗)にあまり多量に厚く塗布しないようにすること。上記の方法で処理し挿しおわたら周囲に土をかけてよく固めておくこと。 ※ 花き類(きく、ゼラニウム等)で登録
チューリップ	オキシベロン液剤	インドール酪酸	花茎基部の伸長	1株あたり1mlを葉間に滴下	第1葉の長さが9~10cmの時期	20~40倍 (50~25ml/水1ℓ)	
シクラメン	ジベレリン水溶剤*	ジベレリン	開花促進	花蕾を含む芽の中心部に散布	9月中・下旬	ジベレリン 1~5ppm	* 水溶剤はジベラ錠、ジベラ錠5、ジベレリン粉末等の商品名で販売 ○ 水溶剤の含有量は商品によって異なるので、各剤の使用説明書に従う。
	ジベレリン液剤	ジベレリン					
つつじ類	オキシベロン液剤	インドール酪酸	さし木の発根促進及び発生根数の増加	3時間さし穂基部浸漬	6月~7月(夏さし)	40倍 (25ml/水1ℓ)	
ベチュニア (施設栽培)	ビーナイン顆粒水溶剤	ダミノジッド	節間の伸長抑制	茎葉散布	定植後2週間目	100~200倍 散布液量は50~150ℓ/10a	
					鉢上げ後	200~400倍 散布液量は50~150ℓ/10a	
はばたん (施設栽培)	ビーナイン顆粒水溶剤	ダミノジッド	節間の伸長抑制	茎葉散布	子葉展開後 鉢上げ後	200~400倍 散布液量は50~150ℓ/10a	
さくら (切り枝促成栽培)	シアナミド液剤*	シアナミド	休眠打破による発芽促進	切り枝全面散布又は切り枝浸漬	CX-10 休眠期(促成開始前)	20倍	* CX-10、ヒットα10の商品名で販売
	シアナミド液剤*	シアナミド			ヒットα10・13 休眠覚醒期(促成開始前)	30倍	* ヒットα13の商品名で販売
	ジベレリン水溶剤*	ジベレリン	休眠打破による生育促進	切り枝全面散布又は切り枝浸漬	休眠期	ジベレリン 25~50ppm 散布液量は50~200ℓ/10a	* 水溶剤はジベラ錠、ジベレリン錠剤、ジベレリン粉末等の商品名で販売 ○ 水溶剤の含有量は商品によって異なるので、各剤の使用説明書に従う。
	ジベレリン液剤	ジベレリン					